

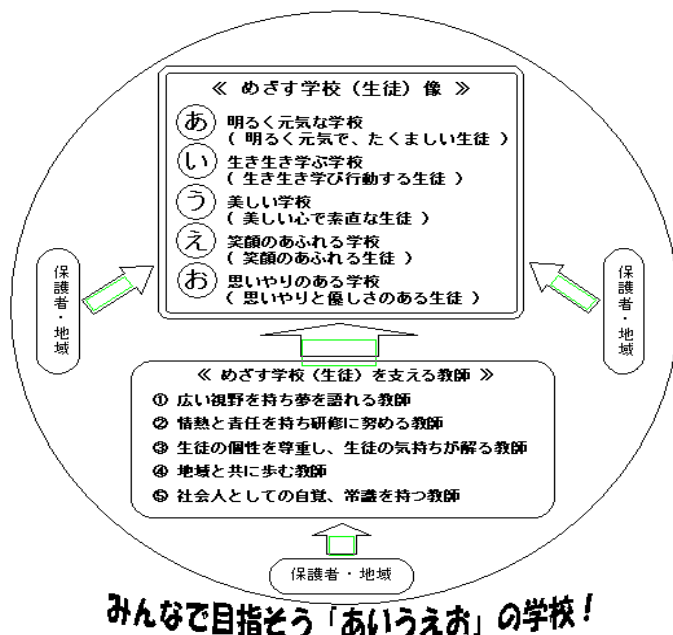
平成22度 鹿島市立東部中学校 学校評価結果

1 学校教育目標

社会の変化に的確に対応するために、知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性と
創意に満ちた生徒を育成する。

- ・ 知 — 自ら考え、正しく判断し行動できる生徒の育成
- ・ 徳 — 礼儀正しく、思いやりのある生徒の育成
- ・ 体 — たくましい心と身体を持つ生徒の育成

2 学校経営ビジョン



3 本年度の重点目標

学校運営においては、学校教育目標の基盤となる共通
目標「目指す、あ、い、う、え、おの学校(生徒)像」を定
着させる。
特に今年度は「生き生き学ぶ学校づくり」に重点
を置いて取り組む。

本年度教育の重点

- ◎ 学力向上に寄与する望ましい生活習慣の指導
- ◎ 少人数指導やTT指導など、指導方法・形態の改善を
 - 命の尊さを自覚させ、豊かな心を育てる道徳教育、エイズ教育の推進
 - 集団の一員としての自覚を深め、調和のとれた人間性を育む特別活動、特に自ら考え自ら行動する生徒集団を育成する特別活動の実践
 - 自ら学び考える力を育てる総合的な学習の時間
 - 保護者と地域との連携を図り、生徒一人一人を理解する生徒指導
 - 人間尊重の人権意識を育てる人権・同和教育
 - 全職員で理解し指導をする特別支援教育
 - 読書の習慣化を図り、思考力の向上を目指す読書指導
 - 好ましい食生活の啓発となる食育指導

4 前年度の成果と課題

- ① 明るく元気な学校づくりについては、生徒会のあいさつ運動がきっかけとなり、よくあいさつをする習慣がついている。また生活習慣では、早寝早起きの習慣づけやテレビ、ゲームの時間について見直す必要がある。
- ② 生き生き学ぶ学校づくりについては、学力向上を目指し授業改善や自主学習ノートの活用実践に取り組んだ。その結果、家庭学習習慣ができており、基礎学力も定着してきた。今後さらに家庭学習の質と量を高めていくように指導していく必要がある。
- ③ 美しい学校づくりについては、掃除の徹底や教室環境の整備を通して心もきれいになることを目指した。8割以上の生徒がきちんと掃除ができていると答えており、おおその成果は上がっている。ただ、毎年1年生への指導に力を入れる必要があり、これからも継続していきたい。また、掃除の時間の最後まで真剣にできるように指導していくとともに、掃除区域毎にマニュアルの作成が望まれる。
- ④ 笑顔のあふれる学校づくりについては、生徒の不安や悩みを軽減するための教育相談体制を充実させたり、交通・安全指導を適宜行い、安心安全な学校を目指して危機対応の整備に努めた。
- ⑤ 思いやりのある学校づくりについては、道徳教育の充実に向けた。いじめや差別をしないように心がけているが、人の嫌がるような言葉を使う者もあり、道徳実践力を高めていきたい。また、QU検査などの結果を学級経営に取り入れ、より良い人間関係づくりを目指して改善していく必要がある。

5 総括表

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題
学校運営	○学校経営方針	・めざす学校像「あいうえお」の周知を図る。 ・めざす学校像「あいうえお」の実施	・教職員、生徒、保護者への周知を図る。めざす学校像「あいうえお」の周知率は9割以上をめざす。	B ・めざす学校像の周知は、生徒、保護者でそれぞれ昨年より1割上昇することができた。 ・全校集会、PTAの会議、学校だよりなどでめざす学校像について説明してきた。	・職員会議、全校集会で説明する。 ・PTA総会や地区懇談会等で説明する。 ・学校だよりや学級だよりに記載する。 ・めざす学校像については、校内に掲示し、常に身近なものとして感じさせるとともに実行力の高いものとする。	成果 ・めざす学校像については昨年度からの取り組みの効果もあり、昨年以上に周知ができた。生徒達自身の目標の中にもおのずと取り入れていくようになった。 ・今年度は特に「生き生き学ぶ学校」づくりに力を入れ、学校への自動車での送迎自粛するなど保護者への協力も呼びかけることができた。 ・周知率は目標に近づくことができてきたが、保護者の学校への関心はまだあまり高くなく、これからのいろいろな機会を通して、理解と協力を呼びかけていきたい。
	○危機管理体制の整備	・めざす学校像「え」の実施 ・危機に際してすぐに機能する「危機管理マニュアル」の定着。 ・危機に対して、敏感で的確な行動ができる体制整備。	・危機管理マニュアルが機能性の高いものと感じる教職員が8割を超える。 ・危機に直面した際の確かな対応ができると思う割合が、職員8割、生徒7割を超える。	B ・今年度は職員、生徒を対象に救急法の研修を行うなど、実効性を増すことができた。 ・「危機に直面した際に的確な対応ができると思う割合」は職員、生徒とも7割であった。	・緊急連絡体制の確立。 ・マニュアルについて理解・徹底を図る。 ・関係機関と連携をとるとともに、各種訓練を実施し、体験的な理解を図る。 ・敷地内巡視をする。 ・多くの情報を発信し、危機意識を高める。	成果 ・今年度は、交通安全教室、防犯教室、救急法講習など警察や消防の協力のもと実施することができた。このことを通して、生徒・職員の危機意識を高めるとともに事案に応じた対応の仕方を学ぶことができた。 課題 ・新しい道路が開通するなど学校周辺の状況も変化しており、常に状況把握に努めるとともに、事案を想定した訓練を実施していく必要がある。 ・危機管理マニュアルをさらに整理して、簡潔で誰にでも分かりやすいものに改善する。
	○教職員の資質向上	・「めざす学校を支える教師像」を目標として常に研鑽を重ねる。	・広い視野を持ち夢を語る教師の意識の高揚。 ・情熱と責任を持ち、研修に務める教師の意識の高揚。 ・生徒の個性を尊重し、生徒の気持ちがかかる教師の意識の高揚。 ・地域と共に歩む教師の意識の高揚。 ・社会人としての自覚、常識を持つ教師の意識の高揚。	B ・職員の意識では約8割がめざす教師像に達していると考えている。ただ地域と関わる機会が少なく、意識も高くない。 ・生徒や保護者は職員の対応について約8割が満足している。	・服務規律の保持に努める。 ・外部講師による研修会を実施する。 ・校内研修会を充実させる。 ・講演会や研究発表会等へ主体的に参加する。 ・研修会等へ参加しやすい校内体制をつくる。	成果 ・生徒や保護者に対しては、誠意を持って対応している。 ・外部講師を招き特別支援教育をはじめ、学力向上や学級経営の研修を行い、指導に活かすことができた。 課題 ・生き生き学ぶ学校づくりをより進めるために、「学び合い」の研究を進め、活動的な授業づくりに努める。
教育活動	●学力向上	・めざす学校像「い」の実施 ・望ましい学習習慣の定着を図る。 ・家庭学習と連動させた授業方法の工夫改善を図る。	・自主学習ノートの実施が9割を超える。 ・「ながら学習」をしない生徒が8割を超える。 ・CRTテストにおいて、すべての教科で、全国平均を上回る。 ・全国学力・学習状況調査および佐賀県学習状況調査の平均を上回る。 ・「わかる授業」との生徒回答率8割以上にする。	B 上の生徒が毎日行っている。 ・ながら勉強をしていない生徒は6割であった。 ・全国や県の学習状況は1年(4月実施)が平均以下だが、2、3年生はほぼ平均を上回った。 ・わかる授業と答えた生徒は約8割であった。	・自主学習ノートの定着。 ・保護者と連携を取り、「早寝 早起き 朝ご飯、テレビを消して家族団らん」を実行させ家庭学習の時間を充実させる。 ・標準授業時数を確保する。 ・TTや少人数授業を推進する。 ・授業研究会を実施する。	成果 ・自主学習ノートの定着により、時間の長短はあるものの家庭学習の習慣は確立しつつある。 ・高学年になるほど成績は向上しており、指導の効果がみられる。 課題 ・1年生のCRTテストの結果はどの教科も全国平均に達していない。 ・家庭学習の内容が課題のみの生徒も多く、学習内容や時間を改善していく必要がある。 ・家庭学習の手引きを活用させる。
	●心の教育	・めざす学校像「え」「お」の実施 ・道徳教育の充実 ・人権意識の高揚 ・ボランティア体験活動を通して思いやりの心、共に生きる心の育成 ・よい校風づくり ・教育相談体制の充実 ・人権・同和教育の推進	・全学級が、年間1回以上道徳の授業を、保護者に公開する。 ・性教育を充実させ、講演会を実施する。 ・ガタリンピック、福祉施設への訪問、24時間テレビ、クリーン作戦などのボランティア活動への参加を促す。 ・学校が楽しいと思う生徒が80%を超える。 ・安心して学校生活が出来ると思う生徒が80%を超える。	B ・全学級が道徳の授業を保護者へ公開した。 ・ボランティアへの参加は8割であった。 ・学校が楽しいと思う生徒は87%、安心して学校生活ができると思う生徒は90%であった。	・全担任が年に1回は、道徳の時間を公開する。 ・エイズキャンペーンを開催する。 ・生徒会を中心に校内外で、ボランティア活動を企画し、体験活動の充実を図る。 ・教育相談の充実。QU検査の実施。 ・差別やいじめを許さない思いやりのある学級づくり。人権作文や標語への取組。	成果 ・教育相談週間が定着してきたので、担任が一人一人とじっくり話し、生徒と担任の信頼関係が深まった。 ・ボランティア活動を通して地域とのつながりが深まったり、お年寄りとの交流に喜びを感じる生徒が多くなり、活動が充実してきた。 ・日曜参観の折りに全学級で道徳の授業を公開することができた。参観者も多く(約150名)、充実した内容であった。 ・QU検査を継続していることは個人の姿を知る上で有効だった。 課題 ・夏休み後、1年生に不登校や登校しぶりをする生徒がみられ、休み中の学習を含め気になる生徒へのきめ細かな対応が望まれる。 ・QU検査の分析結果を学級経営の改善にこれまで以上に有効に活用する。
	●健康・体づくり	・めざす学校像「あ」の実施 ・望ましい生活習慣の形成 ・健康な体づくり	・早寝早起きの習慣が出来る生徒が8割を超える。 ・朝食喫食率97%以上とする。 ・家庭で、テレビを見たりゲームをする時間が3時間以上ある生徒を1割以下にする。 ・部活動ががんばっていると答える生徒が9割を超える。	B ・早寝早起きの習慣は7割、朝食喫食率は94%であった。 ・家庭でテレビやゲームを3時間未満の生徒は7割であった。 ・部活動ががんばっていると答えた生徒は9割であった。	・保護者と連携して基本的な生活習慣をつけさせる。 ・活発な部活動の運営をする。	成果 ・給食の残菜は、給食委員会の活動や担任の指導が行き届いており、ほぼ毎日ゼロである。 ・部活動は、たいへんよく努力しており、体力がついてきた。 課題 ・朝食の喫食率や早寝早起き、家庭での時間の過ごし方など基本的な生活習慣の改善に向けて保護者と連携して取り組む必要がある。

	<p>○開かれた学校づくり</p> <p>・学校情報の発信 ・学校の公開 ・学校評価の実施</p>	<p>・学校便り、学級便りなど月に1回以上発行する。 ・学校行事への保護者の参加を8割以上、授業参観への保護者の参加を5割以上にする。 ・学校評価項目を全員が分担し、よりよい学校評価システムとする。</p>	<p>B</p> <p>・学校便りは月2～3回発行した。 ・学級便りは7割の学級で月1回以上発行した。 ・体育大会はほとんどの保護者が参観した。 ・授業参観は平日に開催した日は参加は少なかったが、日曜参観については5割の保護者に参加してもらった。</p>	<p>・学級だより、保健だより、図書だより、給食だより、進路だより、学校だより等を発行して、情報を発信する。 ・学校行事や授業参観などは早めに案内をし、参加率の向上を図る。携帯メールを利用した呼びかけを実施する。 ・開かれた学校づくり委員会等を開催して情報を公開し、評価の適正を判断してもらう。</p>	<p>成果 ・学校だよりが多く出たことで、保護者も学校の様子をかいま見ることができ、安心につながったようだ。 ・学校行事や部活動への保護者の参加・協力は多い。 ・日曜参観を実施したところ、多くの保護者の参観があった。</p> <p>課題 ・来年度も日曜参観を開催し、普段の授業の様子や道徳の授業公開を行う。 ・学校の教育活動に関心を持ってもらうためにも、情報を発信するとともに、保護者が参加しやすい内容や場の持ち方に配慮する。</p>
<p>特定課題</p>	<p>○掃除やあいさつの充実</p> <p>・めざす学校像「あ」「う」の実施 ・掃除指導の徹底 ・生徒、職員お互いに元気のよいあいさつを交わす</p>	<p>・掃除をきちんとできていると答える生徒が9割を超える。 ・地域で元気なあいさつができているという生徒が7割を超える。</p>	<p>A</p> <p>・86%の生徒が掃除をきちんとできていると答えた。 ・87%の生徒が元気なあいさつができていると答えた。 ・87%の職員が掃除やあいさつの指導とともに自ら実践している。 ・75%の保護者が生徒はよくあいさつをしていると答えている。</p>	<p>・生徒会を中心としたあいさつ運動の充実と教職員の指導体制を確立する。 ・教職員、保護者ともにあいさつを交わしあうように呼びかける。</p>	<p>成果 ・生徒会のあいさつ運動をはじめ学級や部活動での指導も行き届いており、よくあいさつをする習慣がついている。 ・掃除、あいさつともに9割近くの生徒がきちんとできていると答えており、おおよその成果は上がっている。</p> <p>課題 ・そうじについては、ほとんどの生徒がよく取り組んでいるが、中には目の届かないところで手をぬく生徒もみられる。今後も全職員で臨場指導を心がけるとともに、掃除の意義を再確認し、ひいては心まできれいになるように育てていきたい。 ・あいさつは校内に限らず、校外でも自ら先に行えるような手立てが必要である。 ・掃除やあいさつについては全職員及び生徒がその目的や方法について共通理解をする必要がある。</p>

●は共通評価項目、○は独自評価項目

6 総合評価

めざす学校像の達成状況から総合評価を以下のように判断した。

- ・「あ」明るく元気な学校を築くために、あいさつ運動には継続して取り組み、87%の生徒が明るく元気なあいさつができている。集会等でも呼びかけにはきちんと返事をするなど、意欲的な態度が身につけている。健康・体づくりでは、朝食の喫食率は94%で昨年と変わらない。早寝早起きの習慣が身につけていると答えた生徒は67%とまだ低く、テレビやゲームの時間とあわせて保護者の協力を得て改善していく必要がある。
- ・「い」生き生き学ぶ学校を築くために、学力向上をめざし、英語科・数学科を中心にTTや少人数による指導に取り組んだ。また、自主学習ノートの提出率は9割を超え、家庭学習の習慣はできつつある。ただ一部には義務的、形式的に提出している生徒もあり、今後家庭学習の内容とともに意欲を高める課題の出し方についても検討する必要がある。
- ・「う」美しい学校を築くために、職員の臨場指導のもとほとんどの生徒がよく掃除に取り組んでいる。また、校舎・校地についても草繕や除草などの環境整備が行き届いており、望ましい学習環境が保たれている。しかし生徒アンケートでは、ゴミなどを拾うように心がけている割合は67%と低く、中には掃除の手を抜く生徒もみられるので、清掃の意義を再度確認する必要がある。
- ・「え」笑顔のあふれる学校を築くために、定期的に教育相談を実施し、生徒の悩みや不安を早期に解決できるように取り組んだ。また日曜参観の際に全校級で道徳を公開し、多くの保護者に参観してもらったことができた。生徒アンケートでは、「学校が楽しい」と回答した生徒が87%あり、全体的には良好な人間関係が保たれていると思われる。夏休み後に1年生で不登校や登校しぶりがみられたが、夏休みの学習課題を含め、気になる生徒へのきめ細かな支援が望まれる。
- ・「お」思いやりのある学校を築くために、福祉教育やボランティア活動に取り組んだ。また人権作文や人権標語、人権マンガコンクールにも多くの生徒が応募し、優秀作品は文化祭でも発表し共感をよんだ。生徒アンケートでは「友達を差別したりいじめたりしないように心がけている」と回答した生徒が91%あり、生徒の人権意識も高まっていると思われる。

7 来年度の改善策

めざす学校像を充実させることに改善の主眼をおく。

- ・「あ」明るく元気な学校を築くために、あいさつ運動を継承するとともに心が温まるような声かけを行い、生徒が安心して活動できる支持的風土づくりに努める。また、保護者の協力のもと家庭生活を見直し、望ましい生活習慣の確立に努める。
- ・「い」生き生き学ぶ学校を築くために、より活動的な授業をめざし、全教科で「学び合い」の研究に取り組んでいく。この中で生徒相互の関わりを深めるとともに学習意欲を高め、自主的に学習に取り組む生徒を育成する。また、これまで続けてきた自主学習の取り組みを継承し、家庭学習の手引きを活用するなど課題を工夫し、より充実した家庭学習の習慣化に取り組む。
- ・「う」美しい学校を築くために、掃除指導の徹底に努める。学級によっては取り組みに差がみられることもあり、掃除の意義について生徒・職員の共通理解を図り、全職員による臨場指導を行う。また、花植えや手入れなど、生徒会活動と連携し生徒を主体とした環境美化活動に取り組む。
- ・「え」笑顔のあふれる学校を築くために、担任を中心に学年グループでのサポート体制をこれまで以上に強め、気になる生徒への支援を行う。また、必要に応じて教育相談担当を中心にこれまでと同様に、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、心の相談員などの人材を活用し、ケース会議やサポート体制をつくり、担任を支援する。
- ・「お」思いやりのある学校を築くために、福祉教育や人権・同和教育に取り組む。福祉教育においては総合的な学習の時間の計画を検討し、ふれあい活動の他に福祉関係の職場に勤める方の講話を聞いたり介護等の学習を取り入れるなど内容の充実にも努める。人権・同和教育においては、教育活動全体を通して差別やいじめを許さない心を育てるとともに、人権集会やPTA懇談会の機会に教育講演会を実施し、生徒や保護者の心に響く話を聴かせることで豊かな心を育む。